

地域貢献推進実績報告書 (A)

平成 30 年 4 月 23 日

メンバー（所属） ○＝代表者	○ 国際地域学部国際地域学科准教授 関谷浩史 古町花街ぶらり酒実行委員会委員長 知野孝子
-------------------	---

活動テーマ	
古町花街の賑わいを創出する学生参加型実証事業（新潟日報「地ラボニイガタ活動 A」）	
活動の目的	
① 地域資源を活用した地域活性化 ② 学生と地域をつなぐ活動基盤の整備 ③ 世代間の交流を通じた文化的価値観の共有 ④ 情報分析を通じた地域活動の見える化	
活動の内容	
<p>【フルマチジャック】</p> <p>■事業体制：関谷研究室＋古町花街ぶらり酒＋T-Base-Life 協働事業</p> <p>■事業日時：2017 年 6 月 24 日 10:00～17:00</p> <p>■実施場所：新潟市 中央区 古町通 9 番町</p> <p>■事業内容：</p> <p>1) Popup-Shop 事業 ストリートショーケースによる未利用資源を再生させた物販サービス</p> <p>2) International Cafe 事業 待機時間に花街文化にふれられる交流スペース</p> <p>3) Entertainment 事業 昼の時間帯を活用したファミリー層誘客を目的とした娯楽サービス</p>	 
<p>【天明マルシェ】（新潟日報「地ラボニイガタ活動 A」）</p> <p>■事業体制：関谷研究室＋天明自治会＋T-Base-Life 協働事業</p> <p>■事業日時：2017 年 9 月 30 日 14:00～20:00</p> <p>■実施場所：新潟市天明町 T-Base 天明会館 天明中央公園</p> <p>■事業内容：</p> <p>1) フリーマーケット 事業 ストリートショーケースによる未利用資源を再生させた物販サービス</p> <p>2) ワークショップ 事業 地域内外からの誘客と人的交流を促進させる体験サービス</p> <p>3) ヒストリーピン 事業 天明町の歴史や風土を知るため所有する写真や情報を持ち寄って語り学ぶ世代間交流</p>	 

地域貢献推進実績報告書 (A)

平成30年4月23日

メンバー (所属) ○=代表者	○ 小池由佳 (新潟県立大学人間生活学部子ども学科) 角張慶子 (新潟県立大学人間生活学部子ども学科) 斎藤 裕 (新潟県立大学人間生活学部子ども学科)
--------------------	--

活動テーマ

地域での子どもの育ち・子育てを支える支援活動

活動の目的

子どもや子育て家庭に受容的・共感的な地域社会の構築

活動の内容

平成29年度も前年度に引き続き「子どもや子育て家庭に受容的・共感的な地域社会づくり」を目的に以下の3つの事業に取り組みました。

1. 少子地域での子育て支援活動



平成26年度から新潟県内における中山間地での子育て・子育て支援を支える地域貢献活動として、津南町を訪問し、活動を行っています。昨年度も教員と学生が津南町を訪問し、午前は地域子育て支援センターでのイベント及び相談会を行いました。午後からは津南町の保育所で子どもたちと学生の交流を行いました。

2. 子育て相談会の実施

平成27年度から子どもの発達等に関する相談会を開催しています。平成29年度は4回の相談会を実施しました。成長過程にあるお子さんのことで悩みや不安を抱えている保護者の気持ちに寄り添い、助言等につなげていくことができました。

3. サンタ・プロジェクト・にいがたの実施及びサンタ・サミット参加

平成29年度で7回目の取り組みとなりました。昨年度は、5カ所の病院等に152冊の本を贈ることができました。地域の書店、受け入れ先である病院や施設等とのつながりも回を重ねるにつれて充実してきました。また、各地のサンタ・プロジェクトが年に1度集まり、取組の共有を行うサンタ・サミットにも参加し、にいがたでの活動報告及び他地域での取組での工夫を学ぶことができました。



地域貢献推進実績報告書 (A)

平成 30 年 4 月 23 日

メンバー (所属) ○=代表者	○ 植木信一 (新潟県立大学) 生活協同組合コープにいがた 南相馬市教育委員会事務局幼児教育課
--------------------	---

活動テーマ
被災地南相馬市の子ども支援者を支援するプログラム
活動の目的
被災地子ども支援のために、これまで蓄積してきた支援ノウハウを活かしながら、「学生スタッフ派遣事業」、「支援者支援事業」の実施により、南相馬市の放課後児童クラブの子どもたち、および放課後児童支援員を支援することを目的とする。
活動の内容
<p>【実施概要】</p> <p>南相馬市の子ども支援のために、既存の社会資源として現存する放課後児童クラブを活用した。南相馬市内には、教育委員会が直轄する放課後児童クラブが 12 か所 15 クラブあり、被災地子ども支援として「学生スタッフ派遣事業」、「支援者支援事業」を実施するために、新潟県立大学の学生スタッフの協力を得て継続的な放課後児童クラブ支援を実施した。具体的には、社会福祉系の教員等と子ども学科学生で組織されるスタッフ総勢 29 名を派遣し、放課後児童クラブの職員である放課後児童支援員とともに子ども支援にあたった。また、コープにいがたによるおやつ提供を受けながら、おやつの時間を利用して「大型絵本の読み聞かせ (かわいそうなぞう)」を実施することで、子どもとおとなが交流する「交流おやつタイム」を実施することができた。</p> <p>南相馬市を対象に、第 1 期と第 2 期にわたって事業を実施した。第 1 期事業の実施をふまえて、継続事業となる第 2 期事業を実施した。</p> <p>【期日】</p> <p>第 1 期：平成 29 年 9 月 7 日 (木) ～9 日 (土) 南相馬市 第 2 期：平成 30 年 3 月 1 日 (木) ～3 日 (土) 南相馬市</p> <p>【実施場所】</p> <p>東町児童クラブ 1・2、原町第一児童クラブ、橋本町児童クラブ、上町児童クラブ 1・2、石神第一児童クラブ、石神第二児童クラブ、太田児童クラブ、大甕児童クラブ、鹿島児童クラブ 1・2、上真野児童クラブ、八沢児童クラブ、小高合同児童クラブ</p> <p>【学生スタッフのコメント (抜粋)】</p> <p>(大学生 A)</p> <p>このプログラムに参加してから、あっという間に 4 年が経ち、(卒業のため)最後の参加になってしまいました。今回も子どもたちが笑顔で迎えてくれ、また一緒に元気な姿で遊ぶことができ、とても嬉しかったです。子どもたちは会うたびに成長していたり、おとなになったなと感じる場面が</p>



たくさんありました。その成長が私にとっても嬉しいことであり、次の参加が楽しみでした。次回は（卒業のため）来ることができませんが、これまでのようにこのプログラムが継続し、子どもたちが笑顔になれるような活動であってほしいと思いました。「またね」の約束が果たされるよう後輩に引き継いでいきたいと思ひます。今まで（4年間）本当にありがとうございました。

（大学生B）

半年ぶりに会う児童クラブのみんなは相変わらず元気いっぱい、今回も私自身がたくさんのパワーをもらえたように思ひます。今回でこのプログラムの参加は7回目となり、子どもたちの成長を見られてとても嬉しく感じました。児童クラブ支援員と子どもたちのおかげで、楽しい思い出や、災害に関して考えさせられる貴重な経験もさせていただきました。これらの経験を大切に今後活かしていきたいです。



【児童クラブからのコメント（抜粋）】

（放課後児童支援員A）

大学生の皆さんが（南相馬市に）来てくれることに、いつも力をいただいています。皆さんの穏やかで和やかな雰囲気が子どもたちの心をやわらかくしてくれるようすを見て、自分と子どもたちとの関係性を見つめなおす機会になりました。再会できることを子どもたちと楽しみにしています。また会いましょう。

（放課後児童支援員B）

子どもたちに「大学生たちが来るよ！」とお知らせしてから、「いつ来るの?」「明日だけ?」と楽しみにしていました。当たり前のように大学生スタッフが来てくれると思ひていて、再会するとすぐ楽しい笑い声であふれましたね。それもいつも笑顔であたたかく受け入れてくれる大学生スタッフのおかげです。2日目は、大学生スタッフがあそびを教えてくれ、ふだん私たちではできない部分や不足している部分を補ってもらい助かりました。また来てくれることを子どもたちも支援員も待っています。

2017年（平成29年）9月9日（土曜日）

福 島 民 報

南相馬で支援活動

新潟県立大市長に現状聞く

新潟市の新潟県立大の学生らは七日から九日まで、南相馬市を訪問している。桜井勝延市長から市の現状を聴き、市内の児童クラブで支援活動を繰り広げている。

人間生活学部子ども学科の二年生から四年生までの二十七人。二人から四人ずつに分かれて三日間で市内十五カ所の児童クラブを訪問している。宿題などの学習支援をして子どもたちから聞いている。

たちと一緒に遊んだ。訪問に合わせ、コープにいがたが児童クラブにおやつを贈った。

八日は市役所で桜井市長の講演を聴いた。東日本大震災と東京電力福島第一原発事故直後の状況や、復興に向けた再生エネルギーの活用、ロボットによる産業振興といった施策に理解を深めた。新潟県立大生の訪問は二〇一一（平成二十三）年度から続いている。



桜井市長(左)の講演を聴く学生

地域貢献推進実績報告書 (A)

平成 30 年 4 月 6 日

メンバー (所属) ○=代表者	○ 金胎芳子 (人間生活学部健康栄養学科 教授) 田村朝子 (人間生活学部健康栄養学科 教授) 村山伸子 (人間生活学部健康栄養学科 教授) 辻 友美 (人間生活学部健康栄養学科 助手) 込山 敦 (事務局 事務局次長)
--------------------	--

活動テーマ	「UNP 米粉サブレ」商品の姉妹品開発
活動の目的	昨年度商品化した本学ブランド商品「UNP 米粉サブレ」において、課題となっている価格の見直しに視点をおき、新デザインの検討および安価な商品開発を行うことにより在学生や広く既卒生がより買い求め易い商品を開発する。
活動の内容	<p>1. 活動期間 平成 29 年 6 月～平成 30 年 3 月 30 日</p> <p>2. 活動組織 商品製造に際しては、昨年度から継続して本学と商品の製造、販売を担う福祉施設等の受託施設が協同した。また今年度は姉妹商品用の金型を、三条市にある地元企業に依頼することで新たな産・福・学の連携を構築した。 ○事業実施代表、事業運営・・・新潟県立大学 健康栄養学科および事務局 ○商品開発、製造、販売・・・(福)新潟市中央福祉会 ワークセンターふじみ (東区藤見町) ○姉妹商品用金型の製造・・・株式会社 サンシン (三条市)</p> <p>3. 活動内容 平成 29 年 6 月 平成 29 年度 地域連携センター地域貢献推進事業に申請 平成 29 年 7 月 姉妹商品のデザイン、金型について検討 平成 29 年 8 月 姉妹商品の新デザイン決定 平成 29 年 9 月 姉妹商品の新金型完成 (図 1) 平成 29 年 10 月 姉妹商品の試作品 → 「UNP チューリップ型米粉サブレ」(図 2) 平成 29 年 11 月 後援会主催ビジネスリーダーズセミナーにおいて姉妹商品展示紹介 平成 30 年 1～3 月 製造、価格などについて販売先と調整</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>図 1. 新サブレ金型</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>図 2. UNP チューリップ型米粉サブレ</p> </div> </div>

4. 活動成果

新デザイン商品「UNP チューリップ型米粉サブレ」

昨年度開発した「UNP 米粉サブレ」の材料・配合を保持しつつ、一回り小さく、また合成着色料不使用のサブレである。

11月開催のビジネスリーダーズセミナーでは展示紹介し、その際に実施したアンケート結果の概要は以下の通りであった。

【調査方法・回答者・回収率】

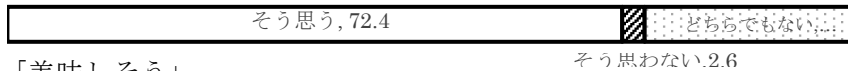
アンケート配布数：120枚、回答数：76枚（回収率：63.3%）

回答者：新潟県立大学 学生、教職員

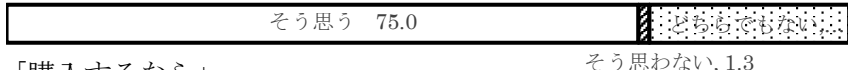
調査方法：大学で開催したセミナーの参加者にアンケート用紙を配布し、回収ボックスにて回収し集計した。

【調査結果】

Q1「外観がかわいい」



Q2「美味しそう」



Q3「購入するなら」



昨年度の活動成果商品である「UNP 米粉サブレ」を継承した新たな姉妹商品である「UNP チューリップ型米粉サブレ」は、製造のレシピ（味）は昨年と同様であるが、校章部分を型押しにすることで合成着色料不使用となり、また、チューリップ型に型抜きをすることでサイズが一回り小さくなることで、より手頃な価格へと近づけることができた。

5. 今後の活動予定

アンケート結果が示した、購入者が求める価格帯に近づける商品展開と販売先の確保（PRや商品を知ってもらうなど）をすることが重要となる。

地域貢献推進実績報告書 (A)

平成 30年 4月 27日

メンバー (所属) ○=代表者	○ 石井玲子 (人間生活学部子ども学科) ○ 斉藤美和子 (人間生活学部子ども学科)
--------------------	---

活動テーマ																								
地域の子どもと家族向けの「第4回みんなも一緒に歌おう！踊ろう！夏休みファミリーコンサート」の開催。																								
活動の目的																								
本事業の目的は、地域の子どもやその家族を対象とした「第4回みんなも一緒に歌おう！踊ろう！夏休みファミリーコンサート～大きくなったら何になる？～」を開催し、文化的な活動を通じて地域・社会へ貢献し、地域における文化芸術の振興を図ることである。平成26年度から毎年、江南区文化会館と本学との連携事業（新潟市江南区からの受託研究）として開催し、毎年800名の集客をしている。本活動が地域の子どもたちの心豊かな成長の助けになり、ひいては地域・社会貢献に資することを目指している。																								
活動の内容																								
<p>平成26年度から、江南区文化会館と本学との連携事業（新潟市江南区からの受託研究）として年間4回の様々なコンサートを企画し、開催している（29年度で4年目）。本コンサートは「江南区文化会館×新潟県立大学コンサートシリーズ2017 Vol.2」として行われた。</p> <p>平成29年度は8月6日（日）①11時～②14時～（1日2公演）に江南区文化会館で開催し、出演者は本学子ども学科2～4年生92名（+舞台スタッフ13名）であった。観客の子どもたちも一緒に歌ったり踊ったりする「参加型コンサート」を行い、観客の子どもとの触れ合いを大切にしたい。</p> <p>本コンサートの内容は、子どもに扮した出演者たちがパティシエ、サッカー選手、アイドルなど、将来何になりたいかの夢を語り、歌を歌うとその夢が叶うという「夢の国」へ行き、夢を叶えていく、というストーリーの中、以下の曲目の歌を歌い（踊り）、70分のプログラム（+休憩15分）として作り上げた。</p> <table border="0"> <tr> <td>♪夢のハーモニー</td> <td>♪ひかるみらい</td> <td>♪あおうよ！</td> </tr> <tr> <td>♪悪役の館</td> <td>♪気球に乗ってどこまでも</td> <td>♪動物園へ行こう</td> </tr> <tr> <td>♪犬のおまわりさん</td> <td>♪世界中の子どもたちが</td> <td>♪大好き！ニッポン！</td> </tr> <tr> <td>♪キッチンオーケストラ</td> <td>♪ハッピージャムジャム</td> <td>♪どんな色がすき</td> </tr> <tr> <td>♪手のひらを太陽に</td> <td>♪ゆめのかけら</td> <td>♪まほうのとびら</td> </tr> <tr> <td>♪しゅりけんにんじゃ</td> <td>♪ぼくらはみらいのたんけんたい</td> <td>♪スマイル</td> </tr> <tr> <td>♪恋するフォーチュンクッキー</td> <td>♪おてんきじどうはんばいき</td> <td>♪はたらくくるま</td> </tr> <tr> <td>♪ディズニーメドレー（ピアノ連弾）</td> <td>♪ともだちはいいもんだ</td> <td>♪あしたははれる</td> </tr> </table> <p>これまでの4年間で計9公演（26年度のみ1日3公演、27, 28, 29年度は1日2公演）を行った結果、どの公演も満席（1公演400名・計3,600名）の観客が集まった。これまでの本事業の聴衆アンケートの結果、毎年100%の人が5段階の5の評価「とても良かった」の回答となり、「毎年このようなコンサートをやってほしい」という要望が多数寄せられた。なお、本コンサートの様子は新潟日報の記事として取り上げられた（平成29年8月7日（月）新潟日報）。</p>	♪夢のハーモニー	♪ひかるみらい	♪あおうよ！	♪悪役の館	♪気球に乗ってどこまでも	♪動物園へ行こう	♪犬のおまわりさん	♪世界中の子どもたちが	♪大好き！ニッポン！	♪キッチンオーケストラ	♪ハッピージャムジャム	♪どんな色がすき	♪手のひらを太陽に	♪ゆめのかけら	♪まほうのとびら	♪しゅりけんにんじゃ	♪ぼくらはみらいのたんけんたい	♪スマイル	♪恋するフォーチュンクッキー	♪おてんきじどうはんばいき	♪はたらくくるま	♪ディズニーメドレー（ピアノ連弾）	♪ともだちはいいもんだ	♪あしたははれる
♪夢のハーモニー	♪ひかるみらい	♪あおうよ！																						
♪悪役の館	♪気球に乗ってどこまでも	♪動物園へ行こう																						
♪犬のおまわりさん	♪世界中の子どもたちが	♪大好き！ニッポン！																						
♪キッチンオーケストラ	♪ハッピージャムジャム	♪どんな色がすき																						
♪手のひらを太陽に	♪ゆめのかけら	♪まほうのとびら																						
♪しゅりけんにんじゃ	♪ぼくらはみらいのたんけんたい	♪スマイル																						
♪恋するフォーチュンクッキー	♪おてんきじどうはんばいき	♪はたらくくるま																						
♪ディズニーメドレー（ピアノ連弾）	♪ともだちはいいもんだ	♪あしたははれる																						

地域貢献推進実績報告書 (A)

平成30年4月23日

メンバー (所属) ○=代表者	○ 小澤薫 (新潟県立大学) 須貝秀昭 (新潟市地域包括支援センターふなえ)
--------------------	---

活動テーマ

病院・施設等における身元保証人等不在への対応マニュアルづくり 新潟県内の病院、施設等調査から

活動の目的

少子高齢化が進む社会状況のなかで、身元保証人等が不在によって病院で治療が受けられない、施設に入所できない、住宅を借りられないなどサービスを必要としている人がサービスを受けられないという問題が深刻化してきている。こうした現状に対応できる、体制づくりを考えるための基礎資料の提供を行う。

活動の内容

「身寄りなし問題研究会」(新潟県社会福祉士会自主事業)と連携しながら、身元保証人等に関する新潟県の実態を把握する。支援者が抱えている不安など各地域での状況の把握、ネットワーク作りにつながる活動を行った。あわせて、身元保証人等が不在のため、どのようなことに困っているのか、新潟県内のすべての病院、特別養護老人ホーム、老健施設、ケアハウス、有料老人ホームに対してアンケート調査を行った。616施設に調査票を配布し、314部の回答が得られた。回答率51.0%。回答率の高さに、それぞれの抱える課題、不安の大きさがみてとれる。ほとんどの施設で身元保証人等を必要としていること、身元保証人等が不在の場合は入所等が断っているという回答が一定数みられた。一部、自由記述について記載する「保証人がいなく、急変で死亡された時の医療費の支払いをされない方がおり、どうしたらよいか不安に思っています」「独居が多くなってきており、誓約書に本人以外の記載がない場合でも受け入れています。金銭コントロールができなくなってくると支払い等、他の連絡先を見つけていくことが困難となってきています」。

今後は、調査結果をもとに、地域で報告し、マニュアル作りに向けた検討を行っていく。ソーシャルワーカーのソーシャルアクションに向けた活動の一助にしていきたい。